

国立がん研究センター東病院 認定看護師教育課程
(緩和ケア)

過去入学試験問題 (客観問題) 一部

開示期間：2024年11月1日(金)～8日(金)

【問】 がんの発生と予防に関して、正しいものを一つ選びなさい。

1. 国立がん研究センターをはじめとする研究グループは、「科学的根拠に基づくがんリスク評価とがん予防ガイドライン提言に関する研究」で、日本人のがん予防のために改善可能な生活習慣は「禁煙」「節酒」「食生活」「身体活動」「適正体重の維持」の5つのみとして、「感染症の検査を受ける」ことは含まれていない。
2. 日本人のがんの原因として、女性で3番、男性でも4番目に多いのが「感染」である。
3. 日本人を対象とした研究から、たばこを吸う人は吸わない人に比べて、何らかのがんになるリスクが約3倍高まることが分かっている。
4. 国立がん研究センターの研究報告によると、がんの部位別では、男性では大腸がん、女性では肺がんにおいて、身体活動量が高い人ほどリスクが低下した。
5. 国立がん研究センターでは、生活習慣とがんやほかの病気の罹患についての追跡調査を実施した。その結果、「禁煙」「節酒」「食生活」「身体活動」「適正体重の維持」5つの健康習慣を実践する人は、0または1つ実践する人に比べ、男性で43%、女性で37%がんになるリスクが低くなるという推計が示された。

【問】 腫瘍マーカーと疾患について、正しいものを一つ選びなさい。

1. CEA は、主に肺、食道などの扁平上皮がんで上昇する。
2. CA19-9 は、主に胃がん、大腸がん、肝臓がん、胆道がん、膵臓がんなどで上昇する。
3. SCC は、主に食道、肺、子宮などの腺がんで上昇する。
4. CA125 は、主に乳がん、胃がん、大腸がんで上昇する。

【問】 フィジカルアセスメントについて、誤っているものを1つ選びなさい。

1. 胸部の断続性副雑音（断続性ラ音）には、水泡音、捻髪音がある。
2. 腹部のフィジカルイグザミネーションの順序は、視診→触診→打診→聴診である。
3. 筋性防御の症状は、腹腔内の炎症が腹膜に及ばないときには現れない。
4. 障害部位と視野欠損は、上下左右逆転する。

【問】 卵巣がんについて、誤っているものを1つ選びなさい。

1. 罹患は、40歳代から増加し、50歳代前半でピークとなる。
2. 組織分類では、上皮性腺癌が最も多い。
3. 主な感度の高い腫瘍マーカーは、CA125である。
4. 手術不能の初回化学療法には、MPA（メドロキシプロゲステロン）療法が行われる。

【問】 次の組み合わせのうち、誤っているものを1つ選びなさい。

1. *RAS* 遺伝子 : がん遺伝子
2. *BRCA1/2* 遺伝子 : がん遺伝子
3. *TP53* 遺伝子 : がん抑制遺伝子
4. *HER2* 遺伝子 : がん遺伝子

【問】 がんの痛みについて、誤っているものを1つ選びなさい。

1. 侵害刺激の痛みのインパルスは、脊髄後角から中心管の前で交叉し、脊髄視床路などを上行し、視床を経由して大脳皮質へと伝導されて痛みを認識する。
2. 神経障害性疼痛は、損傷された神経の支配領域の感覚鈍麻や痺れ感がみられるにもかかわらず、その部位が痛んだりアロディニアが出現したりする。
3. 疼痛のアセスメントについて、過去に痛みの訴えが不明瞭ながん患者に対しては、プラセボを使用して効果を判定することも有効な方法の1つである。
4. WHO3段階除痛ラダーにおいて、第一段階では非オピオイド、第二段階では軽度から中等度の強さの痛みを用いるオピオイド、第三段階では中等度から高度の強さの痛みを用いるオピオイドを使用する。また第一～第三段階において、適応のあるときには鎮痛補助薬を併用する。

※一部改変